

北近畿豊岡自動車道「豊岡道路」懇談会（第2回）

議事要旨

1. 日時 平成20年3月13日（木） 15:00～17:30

2. 場所 じばさん TAJIMA 3F デザイン開発研究室

3. 出席者

座長	流通科学大学情報学部経済情報学科教授	西井 和夫
委員	兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授	中瀬 勲
	兵庫県立コウノトリの郷公園田園生態研究部 主任研究員	大迫 義人
	豊岡市区長連合会会長	日下部 昌男
	豊岡市五荘地区区長会長	白谷 光利
	豊岡市奈佐地区区長会長	竹中 誠男
	豊岡市八条地区区長会長	日村 和夫
	豊岡商工会議所会頭	宮垣 和生
	但馬豊岡観光協議会会長	西村 肇
		(代理 井瀬 邦夫)
	兵庫県但馬県民局県土整備部豊岡土木事務所長	前田 強
	豊岡市都市整備部長	黒坂 勇
		(代理 村尾 彰則)
	豊岡市コウノトリ共生部長	太田垣 秀典
		(代理 和藤 久喜)
	豊岡河川国道事務所長	細川 雅

事務局 国土交通省近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所 工務第二課

4. 議事

1) 規約の確認

- 懇談会規約第7条（懇談会の公開）の訂正内容について確認した。

2) 第1回懇談会での意見について

- 兵庫県だけでなく、北近畿全体のネットワークを踏まえ、ネットワーク全体が整備された場合の効果を整理するべき。
- コウノトリに対しては、生息環境を破壊しないよう、より効率よく影響を軽減する努力を払っていくしかない。
- コウノトリの餌場の問題は非常に重要な問題。ただし、執着しすぎるあまりに価値のあるルートが後回しになっても困る。

- ・ 高速道路の構造や交通が、どの程度コウノトリに影響が出るかは実例がないため判断できない。鹿児島県出水市での実験（ツル）の事例があり、参考になるかもしれない。
 - ・ 地域の人々の知恵と土木技術を融合させ、豊岡道路をコウノトリに徹底的に意識した環境配慮型の道路にしたらよいのではないか。
 - ・ コウノトリの共生と行動圏の拡大の可能性を配慮事項として概略ルート帯を絞る。
- 3) 豊岡道路計画の検討で考慮する事項
- ・ コントロールポイントについてはバランスが重要。希少な動植物への配慮は当然で、自然への改変を最小限にとどめた工法、構造、ルート帯を配慮事項として整理すること。
 - ・ T T Mの計画とあわせて議論すべきであるが、T T Mの計画の熟度が低い現段階では現道接続を前提に議論をしたい。
 - ・ 配慮事項については、モレのないように網羅的に抽出すべき。
 - ・ 懇談会の段階でぜひ、景観について考慮する事項を整理すること。
- 4) インターチェンジの必要性について
- ・ 懇談会の中では、配慮事項、コントロールポイントの中に入れて議論する。
 - ・ インターチェンジが設置された場合に効果が発揮されるための付帯条件を明確にすべき。
 - ・ 豊岡病院から円山大橋をつなぐ道路は県で事業中であり、整備されれば、市街地へのアクセス機能が果たされる。
 - ・ 設置位置、機能、周辺のインターチェンジとの関係、既存道路へのアクセス等の問題について議論が必要。次回懇談会で議論すること。

6. 今後の予定

- ・ 次回懇談会は、4月中旬頃を目処に調整中。

以 上